

ロビーやレストランからは海が一望。「刻々と変わる海を眺めているだけでも素敵な時間です」と丹羽さん。



“晴れやかな時間”を約束してくれる  
人生のご褒美ホテル。

エクスペリエンスデザイナーの原野秀敏さん(左)と、代表の平崎雄也さん(中)と、スタッフのワンチーム感が素晴らしい。



FUKUE ISLAND ④

カラリト  
五島列島

丹羽夏海さん



〇二二年八月にオープンした滞在型ホテル「カラリト五島列島」。レセプションの丹羽夏海さんが福江島に移住したのは、オープン半年ほど

前のこと。きっかけは転職だったという。「以前は大阪のホテルに務めていました。大阪は魅力的な場所ですが、ずっと暮らしていると息苦しくなってきました」。接客と企画広報を兼ねた仕事を希望していたため、目指す仕事の多くは都会にあった。しかしカラリトがオープンすることを知った丹羽さんは福江島を訪れて、考えが変わったという。「転職のポイントはやりたい仕事と住む場所。やりたい仕事は都会にありましたが、福江島に来てみて、今は自然、特に大好きな海のある環境で暮らすことを優先したいと思いました」。



宿泊者はサップやカヤック、シュノーケルやテントサウナなど、様々なアクティビティが無料で楽しめる。

カラリトは全室オーシャンビュー。客室やレストランはもちろん、あらゆる空間に上質な心地よさが漂い、豊かな時間が流れている。「私たちのホテルのコンセプトは『飾らない自分にかえる、晴れやかな時間』をご提供する」と。レセプションの役割として、お客様に心

のよいを脱いでいただき、ゆっくりとありのままの姿で過ごしていただくためには、どのようなコミュニケーションをとればいいのか日々、考えています。それが難しくもあり、やりがいでもあります。カラリトはスタッフ同士の距離感がとても近く、皆が生き生きと働いているのが伝わってくる。「実は社長に直談判して(笑)、最近ではSNSの発信だけでなく、少しずつ広報の仕事もできるようになりました」と話す丹羽さん。カラリトと晴れわたった青空のような笑顔がまた一つ夢に近づいた喜びを語っていた。

大学時代を秋田県で過ごし、北海道のホテルでも働いた経験がある彼女は、離島で暮らすことへの不安はなかったと話す。「この島には生活に必要なものがすべて揃っている上に、すぐに自然にアクセスできる環境が



お客様にはゆっくりお過ごしいただき、日常の中での気付きを得て、帰っていただきたいですね。

